

## 各展示施設の操作

### ■ 受付・ガイダンス



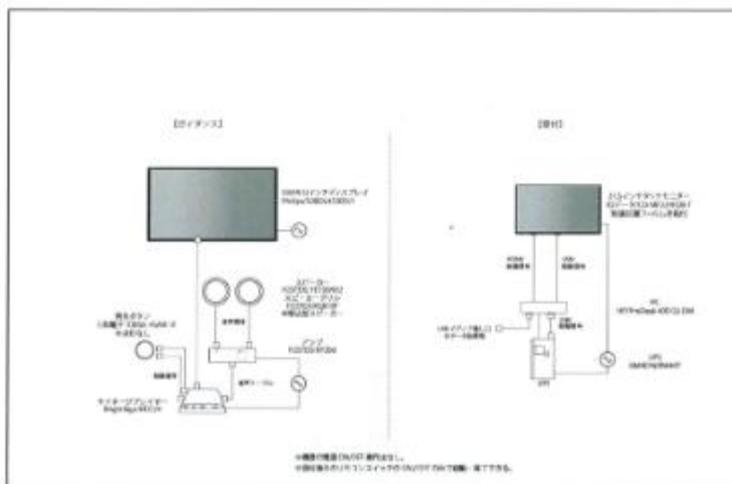
#### 1 システム概要

来館者自身が受付を行うためのシステムです。タッチパネル操作で簡単なアンケート入力を行い、入力されたデータを集計します。

##### 【利用機器】

- ア PC
- イ タッチパネル

##### 【システム構成図】



同じ仕器内に機器を収めているため、ガイダンス・受付の両構成図を掲載しています。

## 2 操作手順

### (1) システム起動方法

インフォメーションコーナー後ろの館内スイッチにて電源をON  
（「赤色」がON）



### (2) システム終了方法

インフォメーションコーナー後ろの館内スイッチにて電源をOFF  
（「緑色」がOFF）

### (3) 操作方法

#### ① トップ画面

「START」をタッチする。通常待機画面で、他の画面で5分間操作が行われなかった場合もこの画面に戻る。



## ② 言語選択

以降の画面言語を選択してタッチする。

「日本語」、「英語」、「韓国語」、「中国語（簡体）」、「中国語（繁体）」を選択することができる。



## ③ 個人・団体選択

9人以下の場合は「個人入力」、10人以上の場合は「団体入力」を選択してタッチする。個人と団体では、以下の入力方法に切り替わる。



## ④ 個人入力

人数を9人以下で選択する。人数を入力後、「次へ」をタッチする。

乗館人数を入力してください

1

戻る 次へ

入力された人数分の項目（年齢、国籍、来館数）を追加入力する。

	年齢区分	国籍	来館数
1	未就学児	日本	1回目
2	未就学児	日本	1回目
3	未就学児	日本	1回目
4	未就学児	日本	1回目
5	未就学児	日本	1回目

戻る

ご提供いただく情報はサービスの改善目的の範囲内において利用し、  
目的外の利用を行うことはありません。

次へ

入力後、「次へ」をタッチし、「入力頂きありがとうございました」の画面で「TOP」をタッチしてトップ画面に戻して終了。

- ⑤ 団体入力  
人数を10人以上で入力する。

団体人数（10人以上）を入力してください

15

1 2 3  
4 5 6  
7 8 9  
BACK 0 CLEAR

戻る 次へ

団体人数分の国籍をそれぞれ入力する。

15人の国籍を入力してください

日本	15	ベトナム	0
アメリカ	0	ロシア	0
中国	0	その他	0
韓国	0		

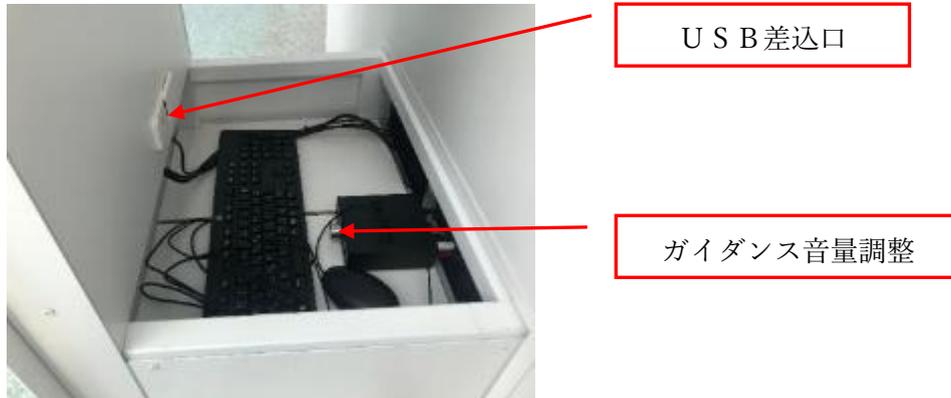
1 2 3  
4 5 6  
7 8 9  
BACK 0 CLEAR

戻る 次へ

入力後、「次へ」をタッチし、「入力頂きありがとうございました」の画面で「TOP」をタッチしてトップ画面に戻して終了。

(4) 集計データの取得

什器背面のUSBポートへUSBメモリを挿すことで、自動的に集計データをコピーすることができる。



コピーが終了すると、画面下部にコピーされたことを伝えるポップアップが表示される。



【集計用紙】

	国籍							本館数				年齢						個人利用者 小計(A)	団体数	個人利用者 小計(B)						総合計 (A+B)		
	日本	アメリカ	韓国	中国	ベトナム	ロシア	その他	1回	2回	3回	4回 以上	未就学児	小学生	中学生	高校生	大人 (19-65歳)	高齢者			日本	アメリカ	韓国	中国	ベトナム	ロシア		その他	団体利用者 小計(B)
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1月	48	2	1	3	1	3	0	52	3	2	1	40	4	0	4	9	1	58	7	252	11	11	502	100	575	7	1458	1516
2月	37	3	0	0	0	0	0	35	3	1	1	27	6	0	1	6	0	40	7	146	7	8	0	21	9	0	191	231
3月	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	86	5	1	3	1	3	0	88	6	3	2	67	10	0	5	16	1	99	14	398	18	19	502	121	584	7	1649	1748

### 3 トラブルシューティング

(1) タッチ操作が行えない

タッチパネル側、PC側のUSB接続を確認する。

再接続後、PCを再起動させるため「(2) システム終了方法」(インフォメーションコーナー後ろの館内スイッチOFF)、次に「(1) システム起動方法」(インフォメーションコーナー後ろの館内スイッチON)からシステムの再起動を行う。

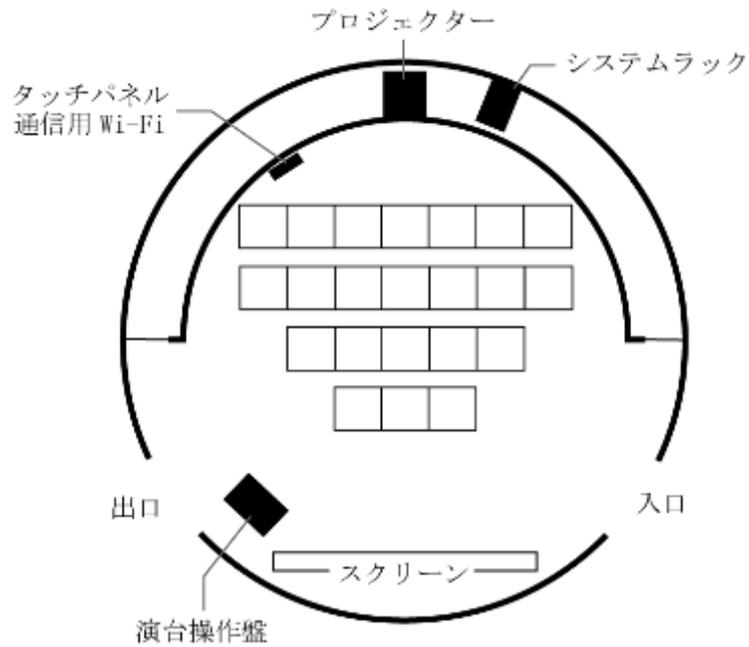
(2) 集計データがコピーされない

ドライブ挿入時、Dドライブ、又はEドライブとして認識されたドライブに自動的にコピーを行う。その他のドライブとして認識された場合は手動でのデータコピーも可能となる。ESCキーでアプリケーションを終了させて、通常フォルダーコピーを行う。

**【集計データ保管場所】**

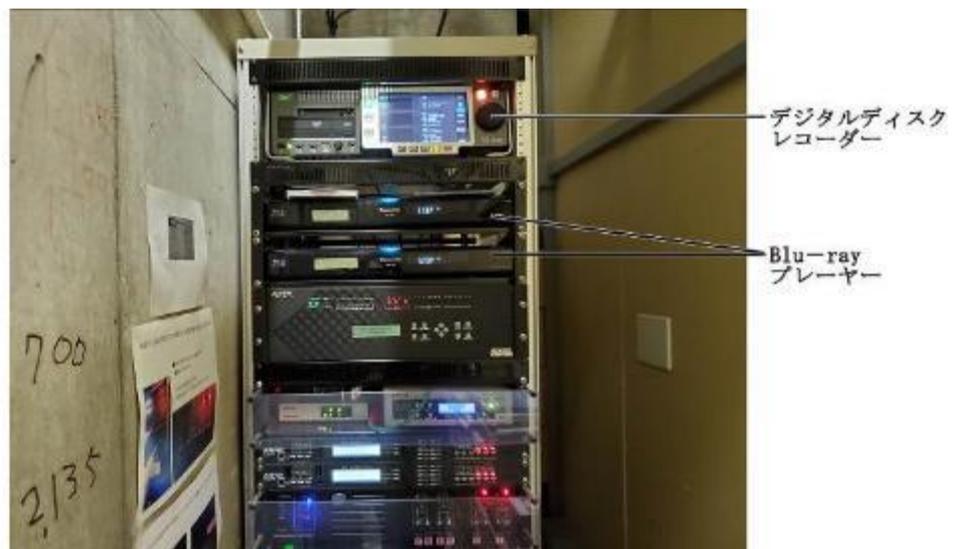
C¥CADCENTER¥ReceptionApp¥受付システム集計データ

## ■ 災害バーチャル体験コーナー



### 1 システム概要

#### (1) システムラック





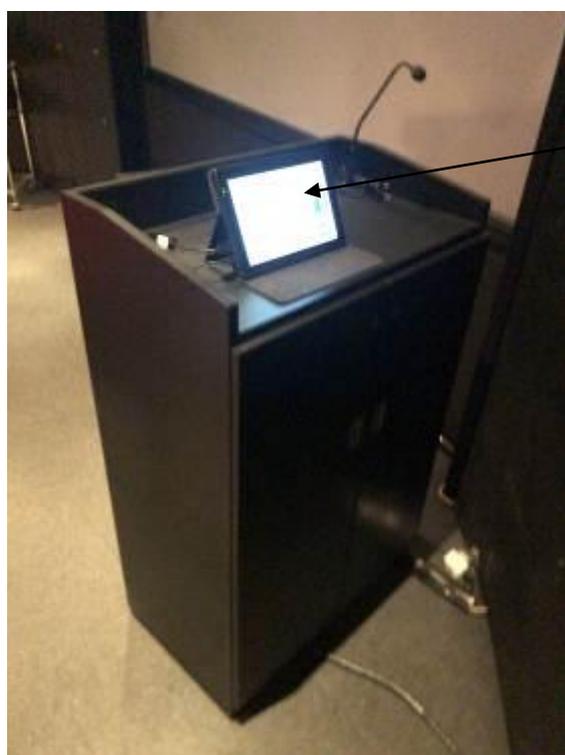
(2) プロジェクター





プロジェクター用  
リモコン

### 3) 演台操作盤

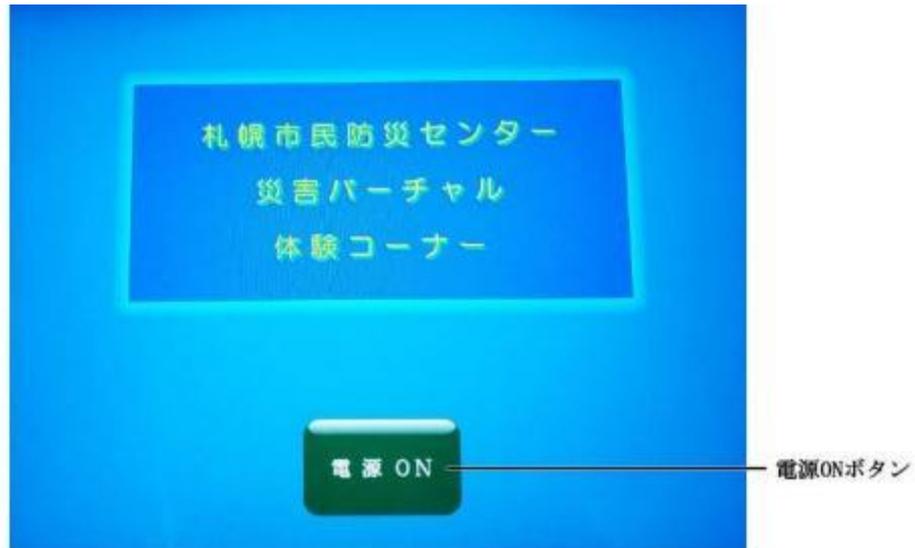


タッチパネル

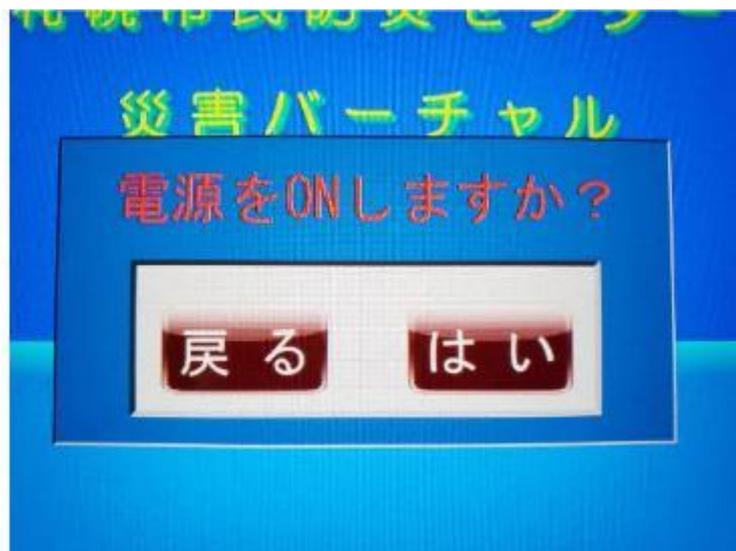
## 2 操作手順

### (1) システム起動

- ① タブレットの電源を入れ（電源ボタン長押し）、「サインイン」をタッチした後、下記のタッチパネル「電源 ON」ボタンを押す。



- ② 「電源を ON しますか？」のメッセージが表示される。そのまま起動させる場合は「はい」ボタンを押す。起動させない場合は、「戻る」ボタンを押す。



※すべてのシステムが運用可能となるためには2分程かかる。  
※室内灯もシステムに連動している。

(2) 自動上映

システムを起動することにより、自動化プログラムでの1時間に1上映  
(基本パターン)が自動で上映される。(10時~16時:7上映)

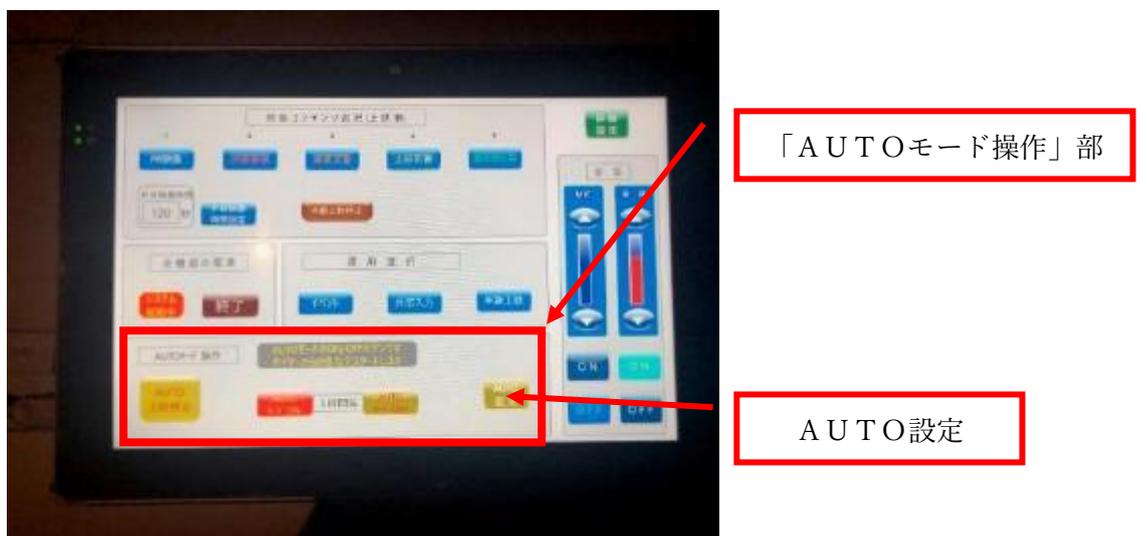
【上映コンテンツ】

津波災害 → 土砂災害 → 都市型災害

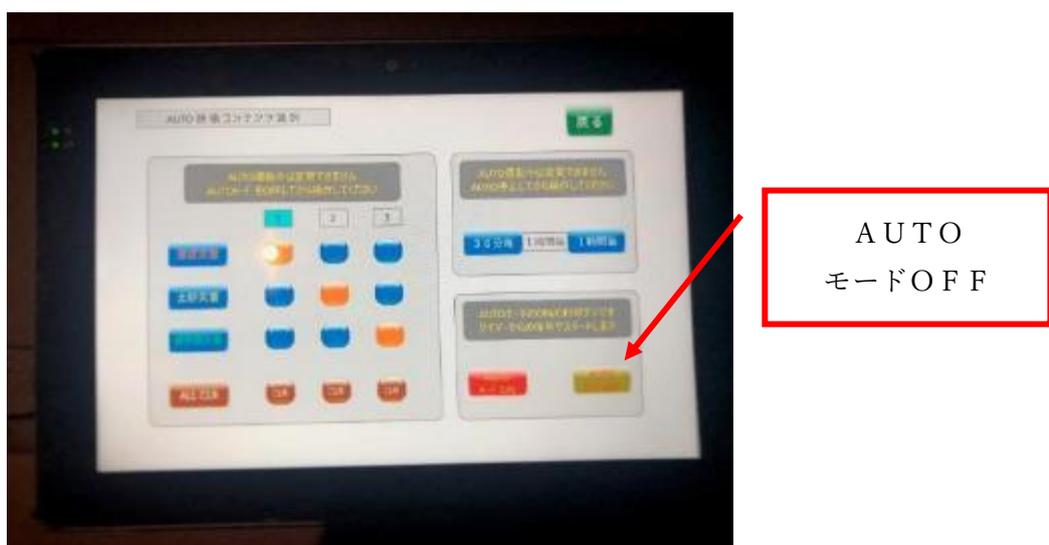
合計上映時間は、21分58秒であるが、1上映25分とする。

【自動化プログラム設定(変更)方法】

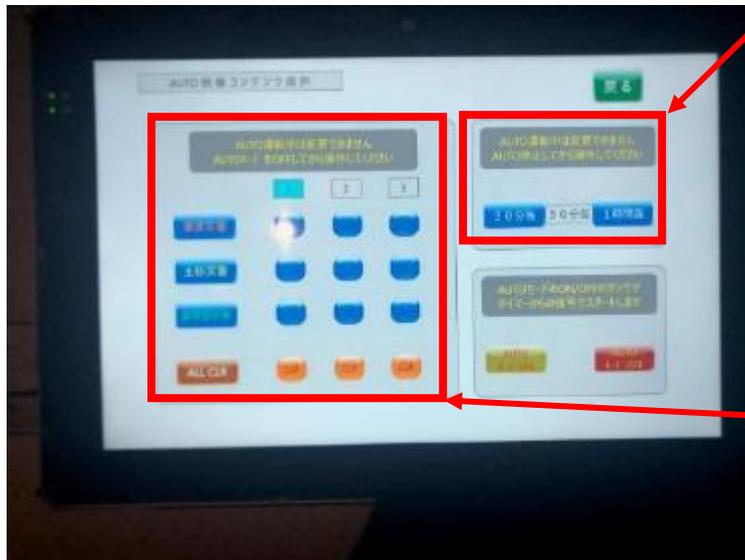
- ① 「AUTOモード操作」の「AUTO設定」をタッチする。



- ② 「AUTOモードOFF」をタッチする。



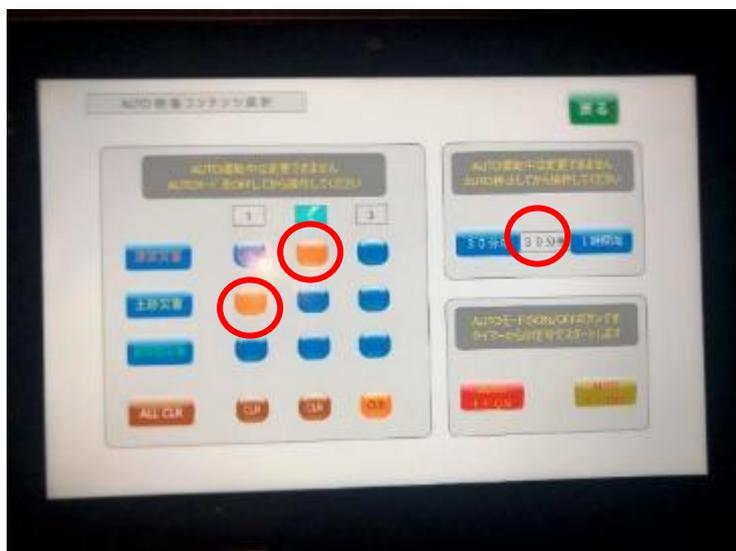
- ③ 「AUTOモードOFF」が赤色に変わったら、時間選択、上映災害及び上映順序が設定（変更）する。



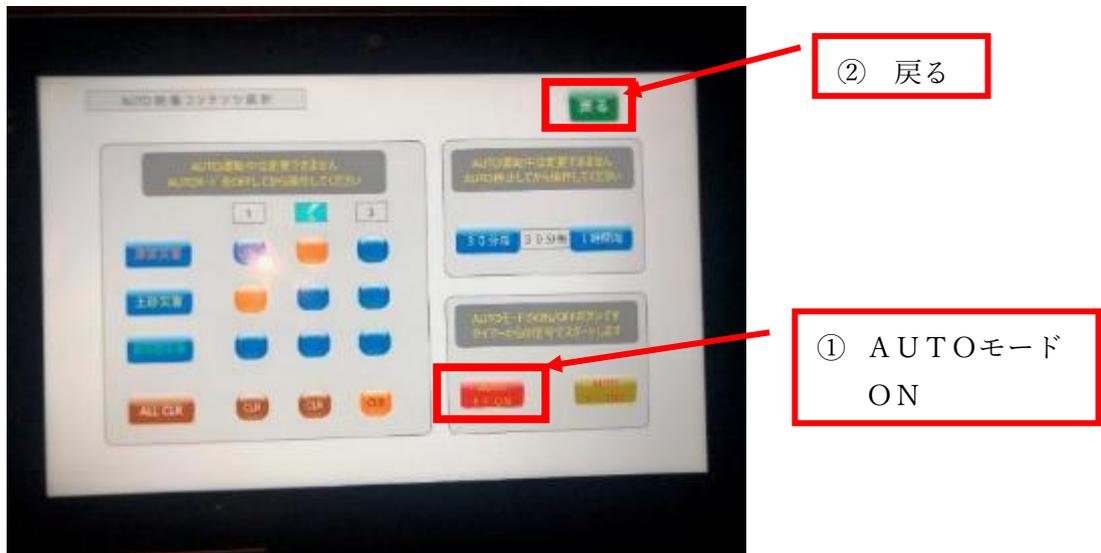
時間選択  
1時間毎か 30分毎

クリアをタッチして  
上映災害と上映順序  
を選択する。

- (例) 1時間に2上映（30分毎）で、それぞれ「土砂災害」→「津波災害」→「都市型水害」の順番で上映される。



- ④ ③の設定（変更）が終了したら、①「AUTOモードON」→②「戻る」をタッチする。



- ⑤ 初期画面に戻り「AUTOモードON」をタッチし設定（変更）完了



- ※ システムを終了させた後、再起動すると1時間に1上映（津波災害 → 土砂災害 → 都市型災害）の基本パターンに戻ります。
- ※ 「AUTO上映停止」をタッチすると上映は緊急停止することができます。

## (3) 手動上映

コンテンツを単体で再生する。

- ① 上映するコンテンツのボタンを押す。
- ② 手動上映をストップする場合は「手動上映停止」ボタンを押す。



## (4) イベント

Blu-ray・DVD ディスクを再生する。

- ① Blu-ray1 または Blu-ray2 を選択する。
- ② Deck Control 「▶」 ボタンを押す。



この画面で演出細部設定を手動で操作できる。

## (5) 外部入力

演台操作盤の外部入力端子に接続したパソコン・再生機器の映像や音声機器を映し出すことが出来る。

- ① 演台操作盤の外部入力端子にパソコン出力を接続する。  
※入力アナログ RGB 端子と HDMI 端子の 2 種類が使用可能。

## (6) PR映像上映時間設定

PR映像の上映時間を設定する。

- ① 「PR映像時間設定」 ボタンを2秒以上押す。
- ② 「+」「-」ボタンで時間を変更し、「SET」ボタンを押す。  
設定した時間は、電源を切っても記憶されている。



## (7) 音量設定

全体音量とマイク音量を設定できる。

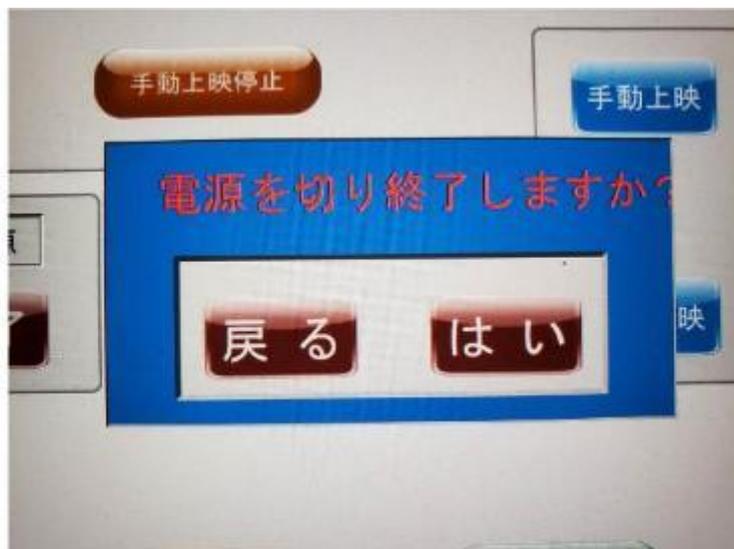


## (8) システム終了

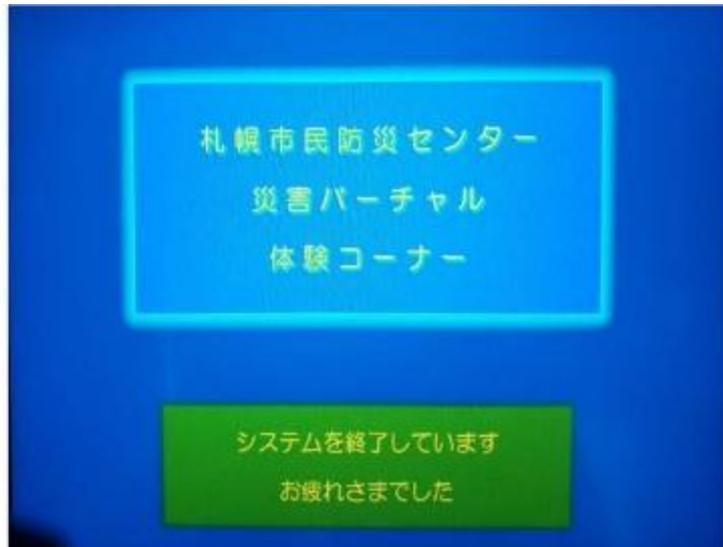
- ① 「終了」ボタンを押す。



- ② 次に下記メッセージが表示される。  
「はい」を押すとシステムが終了する。  
「戻る」を押すと初期画面に戻る。



- ③ 下記画面になった後、初期画面（電源ON）に戻り、タブレットの電源を切って終了。



### 3 トラブルシューティング

- (1) 室内照明が点灯しない、または上映時に消灯しない

- ① 調光ドロワー内にある機器（2台）を再起動するため、一度コネクタを抜き、再度接続しなおす。機器のモニター表示が、エラーが発生していることを表す「88」以外の数字になっていることを確認する。





(2) 全体音量が ON になっているにもかかわらず音が出ない

- ① タッチパネルでシステムを終了する。
- ② スイッチャー・ハブの電源を切る。



- ③ 時間をおいてスイッチャー・ハブを再起動する。
- ④ タッチパネルでシステムを起動する。

(3) UPS からブザー音が鳴っている、エラーが出ている

- ① UPS の電源を切らず、システムラックブレーカーを OFF にした場合は、バッテリーが働き警告音が鳴り続ける。

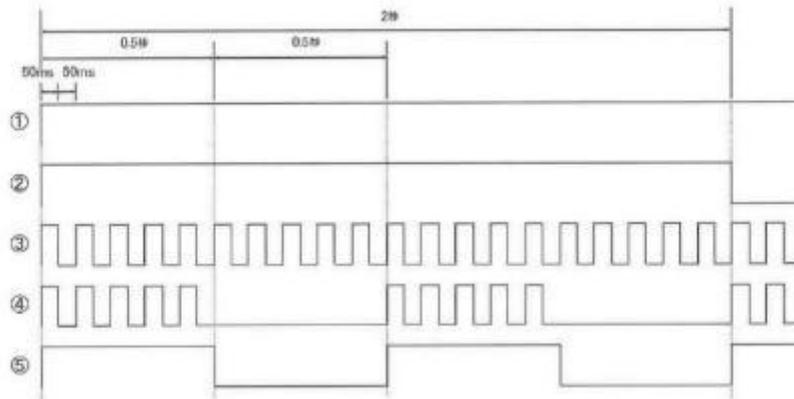


② その他エラーは下記のとおり。

No.	LED表示	UPS状態	運転状態	詳細	ブザー※1
1	OUTPUT 青点灯	出力中	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	インバータ運転、バッテリー運転、バイパス運転状態で出力している時に点灯します。	—
2	OUTPUT 青点滅	始動待ち 停止待ち	UPS待機中 インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	UPS オプションによって、始動待ちおよび停止待ちの状態になった時に点滅します。※2	—
3	CAUTION 橙点灯	待機時の 入力電圧異常	UPS待機中	「OPERATION」スイッチが「ON」した状態で、始動電圧範囲外の時に点灯します。その状態で起動電圧範囲内に正常化すると、点灯は解除され、自動で始動します。	④
4		入力電圧低下	バッテリー運転	入力電圧が低下した時に点灯し、バッテリー運転に無断で切り替わります。入力電圧が正常電圧へ復帰した時は、無断で交流入力運転に切り替わります。	④
5		入力電圧上昇	バッテリー運転	入力電圧が上昇した時に点灯し、バッテリー運転に無断で切り替わります。入力電圧が正常電圧へ復帰した時は、無断で交流入力運転に切り替わります。	④
6		入力電圧異常	バッテリー運転	入力電圧が異常状態の時に点灯し、バッテリー運転に無断で切り替わります。入力電圧が正常に復帰した時は、無断で交流入力運転に切り替わります。	④
7		バッテリー運転 停止予告	バッテリー運転	バッテリー運転中にバッテリー容量が減少し、運転停止が迫っている時に点灯します。	③
8		バッテリー 温度異常	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転 UPS待機中	バッテリー周囲温度が設定値以上に上昇した時に点灯します。インバータ運転時は充電を停止し、出力はインバータ運転を継続します。ただし、温度が正常に戻った場合は、異常から自動復帰します。	⑤
9		過負荷	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	本UPSに接続する負荷が定格容量以上の時に点灯し、警告が出ます。	③
10		ファン故障	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	冷却ファンが故障、または障害によって連続的に停止した時に点灯します。運転は継続します。	②
11		過負荷停止	UPS停止中	過負荷により出力停止した時に点灯します。負荷を減少してから「OPERATION」スイッチを再投入すると運転を再開します。ただし、交流入力異常時は運転を再開しません。	①
12	CAUTION 橙点滅	初期バッテリー 異常	インバータ運転	始動時に、バッテリーが異常の時に知らせます。ただし、バッテリー異常でも充電およびインバータ運転（通常運転）は始動します。 （「9、機能」参照）	①
13		開放バッテリー 異常	インバータ運転	始動してからバッテリーの開放電圧が低下した時に知らせます。ただし、バッテリー異常でも充電およびインバータ運転（通常運転）は継続します。 （「9、機能」参照）	①
14		バッテリー異常	インバータ運転	バッテリー充電中、バッテリー電圧が異常に低下した時に充電を停止します。ただし、インバータ運転（通常運転）は継続します。	①

No.	LED表示	UPS状態	運転状態	詳細	ブザー※1
15	CAUTION 橙点滅	充電器異常	インバータ運転	バッテリー充電中、バッテリー電圧が異常に上昇した時に充電を停止します。ただし、インバータ運転（通常運転）は継続します。	①
16		バッテリー寿命	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	バッテリーの自動寿命診断の結果、バッテリー交換が必要と判断されると点滅します。 （「9、機能」参照）	—
17		通信異常	インバータ運転 バッテリー運転 バイパス運転	コンピュータとの通信が異常となった時に点滅します。	⑤
18	ALARM 赤点灯	半導体温度異常	バイパス運転	本UPSの内部温度が上昇した時に点灯します。インバータ運転時は、インバータを停止し、無断でバイパス運転へ切り替わり、点灯します。	①
19		PFC電圧異常	バイパス運転	インバータに入力されるPFC回路の出力電圧が異常になった時、無断でバイパス運転へ切り替わり、点灯します。	①
20		出力電圧異常	バイパス運転	インバータ出力電圧が異常になった時、無断でバイパス運転へ切り替わり、5秒以上、異常を継続した時に点灯します。	①
21		制御電圧異常	バイパス運転	制御電圧が異常になった時、無断でバイパス運転へ切り替わり、点灯します。	①
22		マイコン異常	バイパス運転	内部制御用マイコンが異常動作した時、無断でバイパス運転へ切り替わり、点灯します。	—
23	ALARM 赤点滅	メンテナンスモード	バイパス運転	メンテナンスモードのバイパス運転により出力している時、点滅します。	—

(1) ブザー警報音



(2) ブザー警報内容

- ① 本UPSの異常時、過負荷停止時、初期バッテリー異常時、開放バッテリー異常時、バッテリー異常時、充電器異常時、半導体温度異常時、PFC電圧異常時、出力電圧異常時、制御電源異常時
- ② ファン故障時
- ③ バッテリー運転停止予告時、過負荷時
- ④ 入力電圧異常時、入力周波数異常時
- ⑤ バッテリー温度異常時、通信異常時

(3) ブザーの停止方法

- ・ブザー鳴動中に「BUZZ OFF」スイッチを押すと、ブザーは停止します。  
ただし、制御電源異常時のブザーは除きます。  
ブザー停止中に新たな事象が発生すると、緊急度合いの高い条件でブザーが再度鳴動します。  
①>②>③>④>⑤  
緊急度合い：高 ← → 低

(4) ブザーの鳴動停止の設定

- ・通常、異常時にブザーが鳴動しますが、「DIP」スイッチのBUZZER OFF設定を「ON」にすると、ブザーが鳴動しないようにすることができます。この機能を設定しますと、異常が発生してもブザーが鳴動しません。（「8. モード設定」参照）

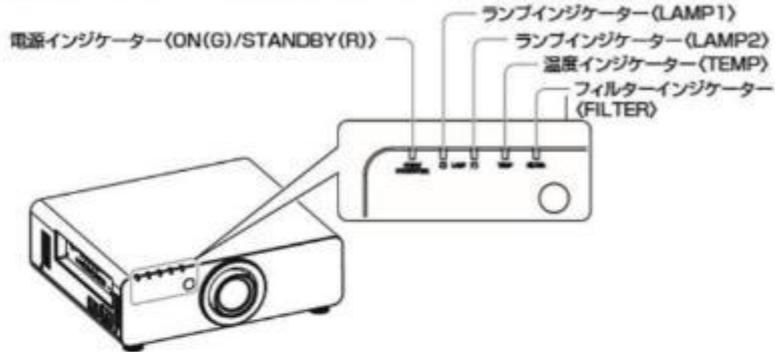
症状	確認	処置
「OPERATION」スイッチを「ON」にしてもUPSが起動しない	入力ケーブルは分電盤に接続されていますか？ 商用電源は正常ですか？	入力ケーブルを分電盤に正しく接続してください。 UPSの起動電圧範囲は下記の通りです。入力電源を確認してください。 85V～146V (設定電圧100VAC時)
「OPERATION」スイッチを「ON」にしてもUPSは起動しないが、「CAUTION」LED(橙色)が点灯している。	商用電源は正常ですか？	UPSの起動電圧範囲は下記の通りです。入力電源を確認してください。 85V～146V (設定電圧100VAC時)
「OPERATION」スイッチが「ON」の状態でも出力がない。また、「OUTPUT」LED(青色)が点滅している。	UPSオプションを使用してスケジューリング運転をしていませんか？	UPSオプションでスケジューリング運転をしている場合、UPSが始動待ちの状態では「OUTPUT」LED(青色)が点滅します。故障等ではありません。
バッテリー運転していないのに「CAUTION」LED(橙色)が点灯する。	UPSの電圧温度は正常ですか？ 接続負荷の容量はUPSの仕様を超えていますか？	荷物の積み上げ等を避け周囲温度を下げてください。 負荷容量が仕様範囲内になるように負荷を調整してください。
バックアップ時間が短い	バッテリー充電は充分ですか？	5時間以上充電し、バッテリーチェックを実施し再度確認してください。 なお、仕様の定格バックアップ時間は初期値です。使用年数によりバックアップ時間は短くなります。
コンピュータと通信ができない	通信ケーブルが通信用コネクタから外れていませんか？	別途用意されている通信ケーブルを、通信コネクタに接続してください。
Windows標準の電源オプション(UPSサービス)で停電シャットダウンは実行されたが、UPSが停止しない。	使用OSは何ですか？	Windows標準の電源オプション(UPSサービス)は、停電シャットダウン後にUPSシャットダウン信号が送出されない仕様になっています。したがって、UPSの故障ではありません。

(引用元：小型交流無停電電源装置「UPS3010SP」取扱説明書P14～16、P29)

(6) プロジェクターが映らない、エラーがでている。

お願い

- 電源を行う際に電源を切るときは、「電源を切る」(P.36 ページ)の手順を必ずお守りください。
- 電源の状態は、電源インジケータ (ON (G) /STANDBY (R)) で確認してください。(P.37 ページ)



ランプインジケータ (LAMP1) / (LAMP2)

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (1回)	赤色点滅 (3回)
状態	ランプユニットの交換時期を表示している	ランプユニットが装着されていない	ランプまたはランプ用電源の異常を検知している
お調べください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本体の電源を入れたときに「ランプを交換してください」という表示が出ませんでしたか。</li> <li>• ランプユニットの使用時間が2,300時間(「ランプパワー」を「ノーマル」に設定時)に達すると点灯します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ランプユニットが装着されていますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源を切ってからすぐに電源を入れ直していませんか。</li> <li>• ランプ回路に異常が発生しています。電源電圧が変動(低下)していませんか。</li> </ul>
対処方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ランプユニットを交換してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ランプユニットが装着されていない場合は、ランプユニットを装着してください。</li> <li>• ランプユニットが装着されているのに赤色点滅をしている場合は、販売店にご相談ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 光源ランプが冷えるまでしばらく待ってから電源を入れてください。</li> <li>• 主電源 (MAIN POWER) スイッチを (OFF) にして (P.38 ページ)、販売店にご相談ください。</li> </ul>

お知らせ

- 上記の処置をしてもランプインジケータ (LAMP1) / (LAMP2) が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

温度インジケータ (TEMP)

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (1回)	赤色点滅 (3回)
状態	ウォームアップ状態	内部が過熱になっている (警告)	ファンが止まっている
お調べください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気室が熱い (0°C 付近) 状態で電源を入れませんでしたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 排気口 / 排気口がふさがれていませんか。</li> <li>• 気室の汚れで使用していませんか。</li> <li>• フィルターインジケータ (FILTER) が点灯していませんか。</li> </ul>	—
対処方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このままの状態ではおはじりお待ちください。</li> <li>• 内部温度が 70°C 以上になると自動的に電源を切ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 排気口 / 排気口がふさがれているものを取り除いてください。</li> <li>• 内部温度が 70°C 以上、内部湿度 70% ~ 80% (湿度) の場合に電源を切ります。</li> <li>• エアフィルターユニットの取り入れ、または交換をしてください。(P.107、108 ページ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 主電源 (MAIN POWER) スイッチを (OFF) にして (P.38 ページ)、販売店にご相談ください。</li> </ul>

\* 高熱 (周囲 1,400 m ~ 2,700 m) で使用する場合、使用環境温度の上昇は必ず起こります。

お知らせ

- 上記の処置をしても温度インジケータ (TEMP) が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

フィルターインジケータ (FILTER)

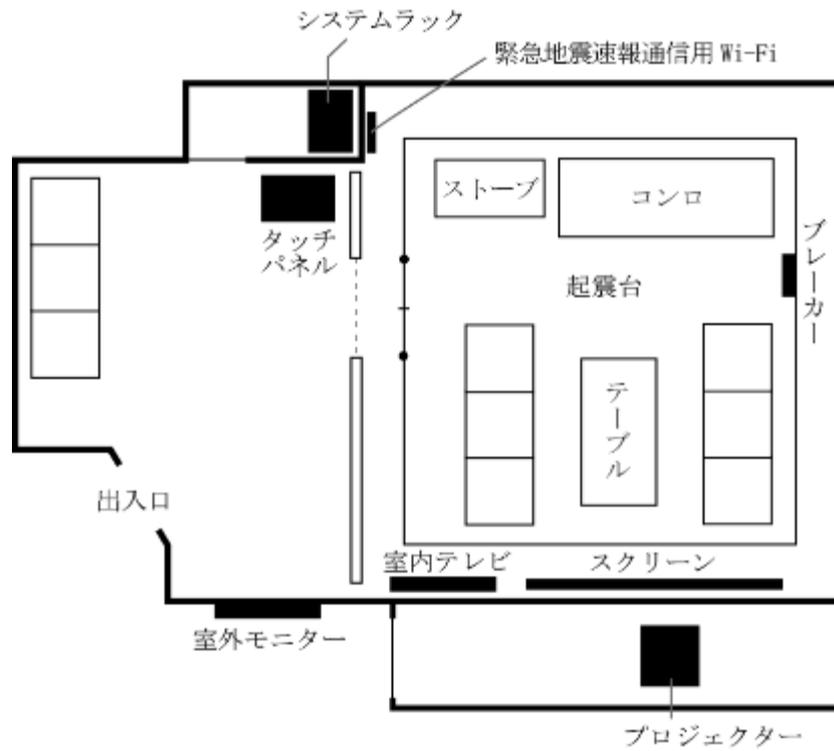
点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (1回)	赤色点滅 (3回)
状態	フィルターがほぼ満ちている	内部が過熱になっている	エアフィルターユニットが装着されていない
お調べください	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エアフィルターユニットが汚れていませんか。</li> <li>• エアフィルターユニットのお手入れ、または交換をしてください。(P.107、108 ページ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 排気口 / 排気口がふさがれていませんか。</li> <li>• 排気口 / 排気口がふさがれているものを取り除いてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (過熱モード) が正しく設定されていますか。</li> <li>• 周囲 1,400 m 以上、2,700 m 未満で使用する場合、(過熱モード) (P.71 ページ) を (オフ) に設定してください。</li> <li>• 湿度が 70% 以上の環境では使用しないでください。</li> </ul>
対処方法	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エアフィルターユニットが装着されていますか。</li> <li>• エアフィルターユニットを装着してください。</li> </ul>

お知らせ

- 上記の処置をしてもフィルターインジケータ (FILTER) が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。
- 電源を入れたときに、エアフィルターユニットが装着されていない場合、フィルターインジケータ (FILTER) が赤色点滅し、10分間、電源が切れます。
- フィルターがほぼ満ちると、「ランプ満ち」を「チェック」に設定していても、ランプ1枚のみの点灯状態になることがあります。エアフィルターユニットのお手入れをするか、またはエアフィルターユニットを交換してください。

(引用元：プロジェクター「PT-DW6300」 取扱説明書 P105~106)

## ■ 地震体験コーナー



### 1 システム概要

#### (1) システムラック



(2) タッチパネル



(3) 火災対策機器

スイッチを切ると演出が消え、表示板が緑に点灯する。  
タッチパネルの表示の色も緑色に変わる。



(4) 起震台横の室内テレビ等の機器



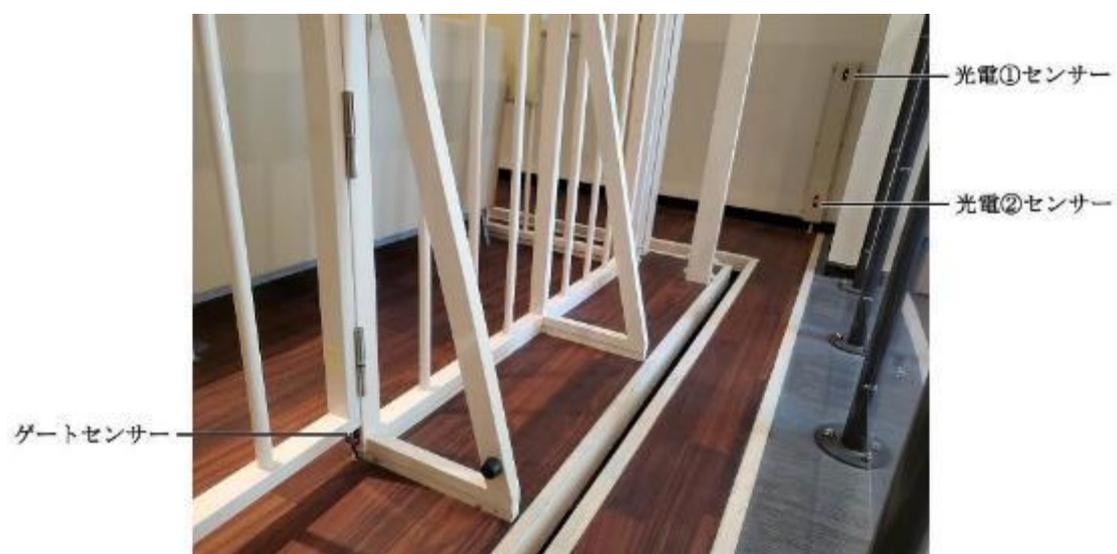
(5) 緊急地震速報用スマートフォン



(6) 緊急地震速報通信用 Wi-Fi



(7) センサー



## (8) 地震プログラムの演出

	予決向け地震	関東大震災	北海道南西沖地震	阪神・淡路大震災	スマトラ島沖地震	東日本大震災	同定(長周期)	札幌別定地震
震害	3	7(補定)	5	7	6	7	5(震災)	7
震度表示 (計測震度)	3.2 (13.2)計測の札幌向 西)	6.5 (補定)	5.4 (補定)	6.4 (JR補定)	6 (データなし)	6.6 (宮城 豊城)	4.8 (新庄上巻念)	6.5 (新潟川口町)
発生日	20XX年夏	1923/9/1	1993/7/12	1995/1/17	2004/3/30	2011/3/11	2011/2/11	2000年老
発生時間	昼	11時58分	22時17分	5時48分	10時16分	14時46分	14時46分	夜
ストロボライト	なし	なし	45秒後	6秒後	なし	70秒後	なし	1秒後
カラーライト	25秒後	44秒後	33秒後	18秒後	なし	100秒後	なし	32秒後
室内照明	なし	なし	暗くなる	暗くなる	なし	暗くなる(45秒後)	なし	暗くなる
室内テレビ	アニメ	なし	紀行番組	期の情報番組	紀行番組	紀行番組	紀行番組	紀行番組
同基地地震速報	あり	なし	あり	あり	なし	あり	あり	あり
音持映像	アニメ	大正時代(日本橋)	奥島島	神戸市	スマトラ島	宮城県東港市	新潟県蒲原市	札幌市内
エリアメール	なし	なし	あり	あり	なし	あり	あり	あり
巨震時間	30秒	60秒	70秒	25秒	80秒	120秒	30秒	80秒
全体体験時間	85秒	120秒	135秒	30秒	125秒	185秒	95秒	125秒

## (9) 室内照明の調光

地震種別によって、室内照明を暗くしたりしている。  
明るさはスイッチの回転により調整できる。



調節ボリューム

## 2 操作手順

### (1) システム起動

- ① 起震台階下のピットにある制御盤のボタンで主電源を ON にする。



- ② 操作キーを右に回し、タッチパネルを起動させる。



- ③ PC が立ち上がっていることを確認した後、緊急地震速報用スマートフォンの電源を ON にする。



- ※ 映像の送出機やスマートフォン用 PC の主電源は受付後方のスイッチと連動している。





- ④ スマートフォン画面はキーボタンをスライドさせるとアプリが自動的に起動する。



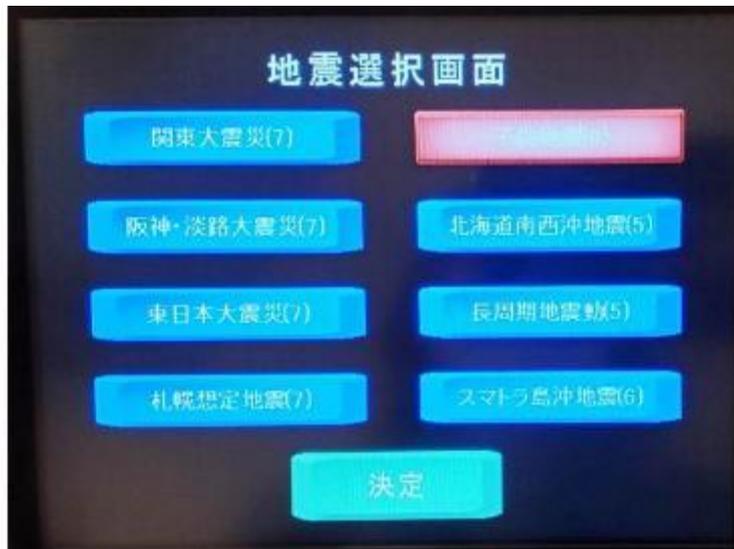
- ⑤ 室内モニター、室外モニター、窓枠用プロジェクターの電源をリモコンでONにする。



- ⑥ すべての機器の起動を確認した後、「子供地震」を選択し、テストランニングを行う。

## (2) 地震プログラムの実施

- ① タッチパネルの地震選択画面から体験する地震を選択し、「決定」ボタンを押す。



- ② タッチパネル左上の表示枠には選択した地震名が表示される。  
地震を変更したい場合は「地震を選びなおす」ボタンを押して、選択画面に戻し、再度選択しなおす。

- ③ タッチパネルの「開始」ボタンを押す。  
起震台が機械原点に戻ってくるまでは、画面上のどのボタンを押しても反応しない。体験が終了すると地震選択画面に自動で戻る。



※事故防止のため、プログラムが終了後コーナーを離れる場合は、必ず操作キーを左に回してタッチパネルを OFF にする。

### (3) システム終了

- ① 操作キーを左に回し、タッチパネルの電源を OFF にする。
- ② 室内モニター、室外モニター、窓枠用プロジェクター、緊急地震速報用スマートフォンの電源を OFF にする。緊急地震速報用スマートフォンは主電源より先に OFF にする。
- ③ 起震台階下に行き、主電源を OFF にする。

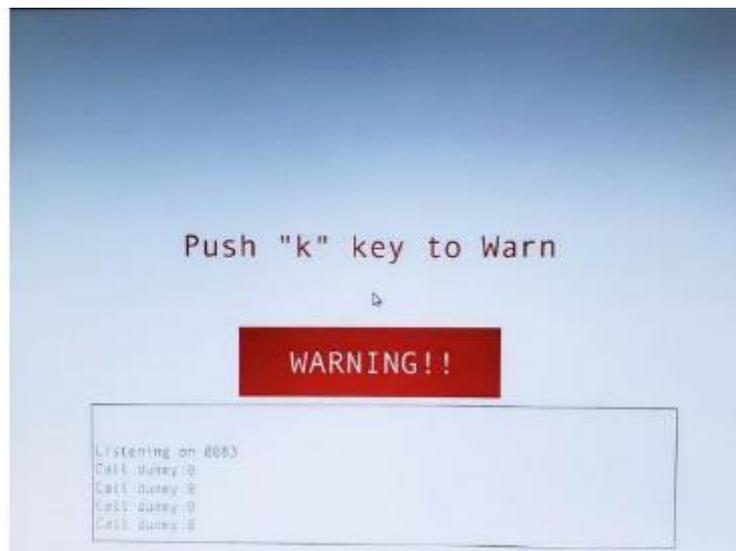
### 3 トラブルシューティング

#### (1) 緊急停止と復旧

- ① 非常時、操作台に設置されている「緊急停止スイッチ」を押すと緊急停止となる。
- ② 復旧は「緊急停止スイッチ」を右に回して、「カチッ」と音が鳴るのを確認する。その後、タッチパネルの「緊急停止復旧」ボタンを5秒以上長押しする。
- ③ 起震台は自動的にスタート位置に戻り、新たにプログラムが選択できる。

#### (2) スマートフォンの緊急地震速報が鳴らない

- ① 緊急地震速報用PCの「K」ボタンを押し、画面に「WARNING!!」が表示されるか確認する。



- ② 「WARNING!!」が表示される場合はスマートフォンの再起動をする。

- ③ 「WARNINNG!!」が表示されない場合は緊急地震速報用 PC と緊急地震速報用スマートフォンの両方を再起動する。

(3) 体験中起震台が停止した、起震台が上がらない

- ① センサーに感知した等、停止した原因が明確な場合は、「緊急停止と復旧」の手順に沿って操作する。

※センサーが感知した時は、タッチパネルのセンサーモニターが赤色に点灯する。



※「緊急停止スイッチ」を押さずに、「緊急停止復旧」ボタンのみを押すと機械原点に戻らず、その状態で再度起震装置を動かすと、起震台が外枠に乗り上げる等の危険性がある。

- ② 復旧しない場合や起震台階下ピット内の制御盤モニターに重大なエラーが表示されている場合は、消防局へ報告し、指示を仰ぐ。



※制御盤の主電源を OFF にして強制終了すると、エラーや機械原点がリセットされるため、トラブルの原因が特定できない。また、起震台が外枠に乗り上げる危険性がある。

#### (4) 停電時

- ① 体験中の場合は停電した時点で停止し、その位置で起震台が降下する。枠に乗り上げる可能性がある。
- ② 消防局へ報告し、指示を仰ぐ。
- ③ 落雷等、停電が予想される場合は体験を休止するなどの措置を取る。  
※体験休止が長期間に及ぶ場合は、消防局と協議を行うこと。連絡については 11 ページを参照。

## 4 その他

### (1) 車いすの固定

- ① 手前ソファ下部のネジ及び固定金物をすべて外し、ソファを取り外す。
- ② 取り外したネジを、ソファを固定していた元の位置に取り付ける。



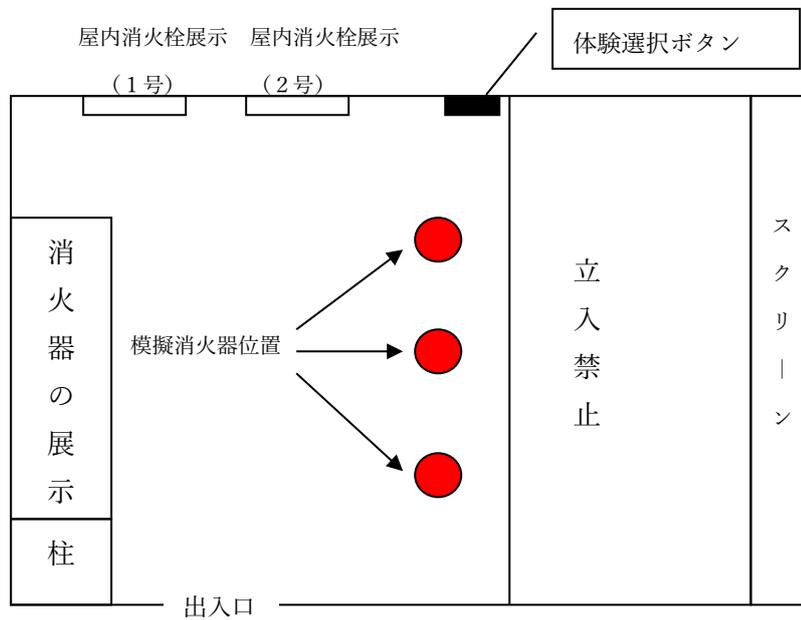
- ③ 車いす前方の固定については、取り付けたネジの間に車いすを設置し、車いす前輪の構造部分とネジをマジックテープで固定する。



- ④ 車いす後方の固定については、後ろの柵と車いす手すり部分をマジックテープで固定し、車いすがしっかりと固定されたことを確認する。



## ■ 消火体験コーナー



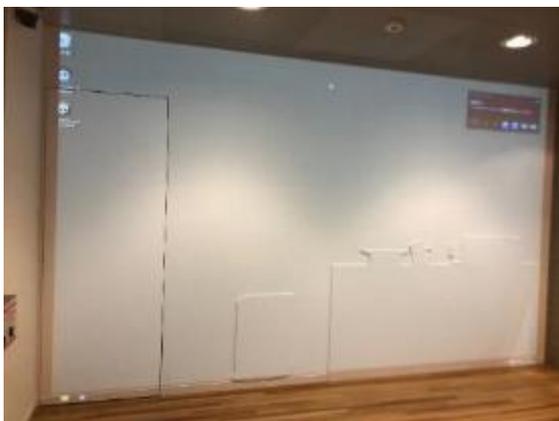
### 1 システム概要

#### (1) 概要

センサーを搭載した模擬消火器を用いて、複数人同時体験が可能な消火体験の学習システムで、1体験は最大約6分間（ガイダンススキップ時は約3分程度）である。

#### (2) 利用機器

##### ① スクリーン



## ② PC

通常はキーボード及びマウスは外した状態で運用、トラブルシューティング対応時に、キーボード及びマウスが必要となる。



(キーボード及びマウスを付けた状態)

差込口



(キーボード及びマウスの差込口)

## ③ プロジェクター



④ 模擬消火器（バッテリー内蔵）・トラッカー（消火器先端部）



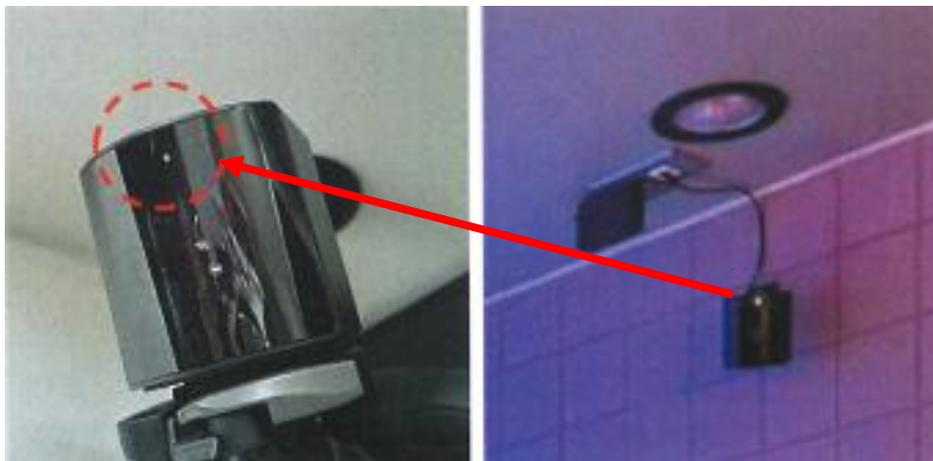
（トラッカー）



（模擬消火器）

※ トラッカーは、センサー・送受信機の働きをするので、覆う・驚掴みにする等、本体が隠れるような状態ではうまく動作しない。

⑤ ベースステーション（赤外線投光器）



※ 操作は不要、作動時に緑ランプの点灯を確認する。



## 2 操作手順

### (1) 照明について

インフォメーションコーナーの後ろのスイッチで、消火体験コーナーの照明の入り切りを行う。

なお、システムの起動と室内の照明（ON/OFF）は連動していない。



(2) システムの起動

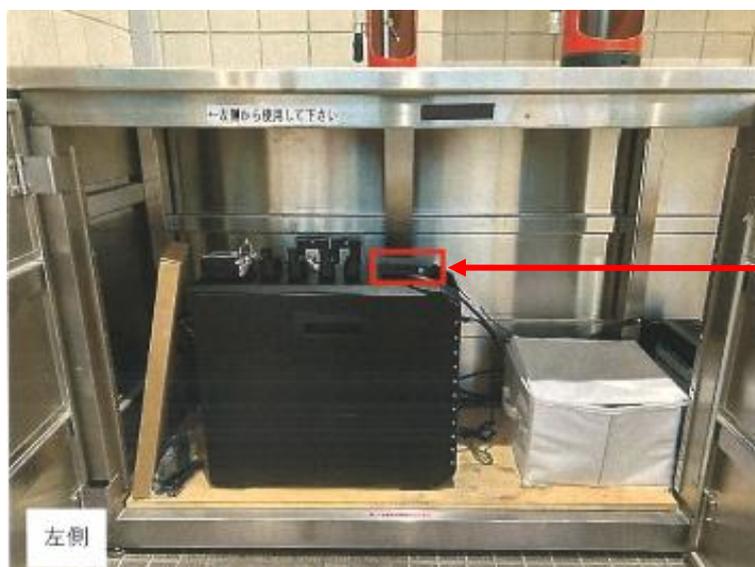
システムの起動に必要な機器については、消火体験コーナーの消火器を展示している棚の中に収容されている。

なお、体験時は扉を閉めた状態で運用すること。



手元スイッチ

アンプ電源ボタン



ヘッドマウント  
ディスプレイ  
電源ユニット

- ① アンプの電源を「ON」にする。



- ② ヘッドマウントディスプレイの電源ユニットの電源を確認する。  
LEDが常時「緑」に点灯していることを確認、消灯している場合は電源が入っていないため、電源ユニットの水色の電源ボタンで電源を入れること。



③ 手元スイッチを「ON」にする。

UPSが「ピー」という起動音で「ON」になり、連動してPCが起動する。

プロジェクターは、PCから映像信号が入力されると自動的に起動する。約3分後、システム起動まで自動で行われる。



#### 【システム起動後画面】



④ 消火器の準備

システムの起動を確認した後、消火器の準備を開始する。

消火器にはバッテリーが内蔵されており、閉館時に充電を行うようにすること。(システムの終了：参照)



(閉館時の充電状況)

A 消火器のUSB充電ケーブルを外す。



USB-C (端子) ケーブル

- B トラッカーにUSB-Cケーブルを挿すとLEDが「黄色」から「白」に点灯する。

**必ず消火器側のUSB充電を外した状態で、USB-Cのケーブルを挿すこと。**点灯が確認できない場合は、抜き差しすることで点灯する。



- ※ トラッカーにUSB-Cの端子を抜き差しすることで、モバイルバッテリーからの給電が開始する。

- C トラッカー頭頂部の三角ボタンを1秒長押しする。  
LEDが「青色」から「緑色」に点灯し、電源が「ON」になる。



- ※ 2秒以上長押しした場合、LEDが「青色」の点滅となり、Bluetoothのペアリングモードに入る。

しばらく放置することで、通常利用可能となる。

放置しても通常利用可能状態に戻らない時は、後述の「3. トラブルシューティング」を参照し、再ペアリングを行う。

## (3) 体験の流れ

## ① 待機画面

通常時の待機画面で、体験者の参加を待ち受ける。

体験者は壁にある青・白ボタンで体験を開始する。

青ボタンはガイダンス映像入りで開始、白ボタンはガイダンス無しで  
消火体験シーンまでスキップして開始する。



(待機画面)



(青・白ボタン)

## ② ガイダンス映像

操作は無く、青ボタンを押すとガイダンス映像のみで進行する。



## ③ 消火体験

「消火器を準備」の合図で消火器での操作が可能になる。(消火体験シーン以外では消火器の操作はできない)

カウントダウンの後、制限時間内(50秒間)に消火を行う。

火災発生個所は「ストーブ」、「こんろ」、「コンセント」のうち、ランダムで発生する。

## A【消火器を準備の画像】



## B【消火開始のカウントダウンの画像】



## C【消火中の画像】



⑤ 体験結果表示

消火成功、又は消火失敗の後、追加解説映像が再生される。



(消火成功画面)

⑥ 最初に戻る

一連の流れが終了後、待機画面に戻る。

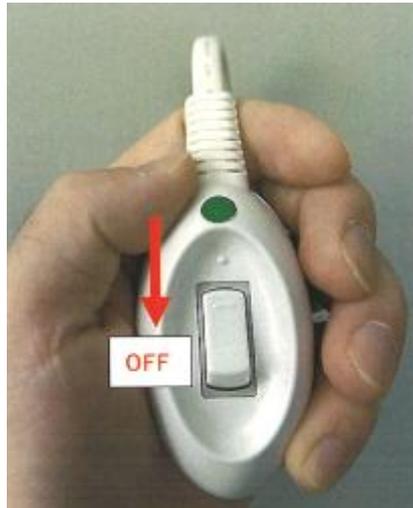


(体験終了画面)

## (4) システムの終了

## ① 手元スイッチを「OFF」にする。

UPSが「ピーピーピー」と継続して3分ほど鳴り続ける。(この間に、UPSに連動して、PC及びプロジェクターのシャットダウンが自動的に行われる。)



※ 音が鳴っている間は、手元スイッチを「ON」にしないこと。

もしも、「ON」にした場合は、PCを手動で操作し電源ボタンから起動し、そこからもう一度スイッチを「OFF」にすること。

## ② アンプの電源を「OFF」にする。



※ UPSの音が鳴っていてもアンプは「OFF」にしてもかまわない。

## ③ 消火器を戻す。

A PCの終了を確認してから、トラックのUSB-Cケーブルを外す

トラック自体はPCシャットダウンに連動して自動で電源が「OFF」になる。



※ プロジェクターの投影が終われば、PCもシャットダウンしているので、消火器を充電する工程に入っても良い。

## B 消火器を元の位置に戻してUSB充電ケーブルを挿す。



## C 終了

翌日のシステム起動時まで充電しておく。

### 3 トラブルシューティング

#### (1) トラッカーが青色点滅している。

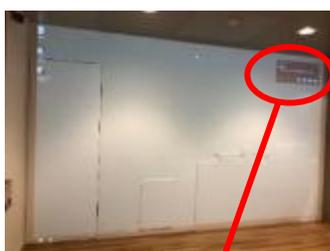
トラッカーの電源ボタンを2秒以上長押しすることで、Bluetoothのペアリングモードに入る。PCを操作して「再ペアリング」を行うことで通常状態に戻る。

#### 【再ペアリング手順】

- ① キーボードを設定し、「ESC」キーを押してコンテンツアプリケーションを終了させる。



- ② デスクトップ画面右上の設定アプリ「SteamVR」の左上メニュー（三本線）から「デバイス」→「コントローラーのペアリング」を選択する。



設定アプリ「SteamVR」

(デスクトップ画面はスクリーンに映し出される)



メニュー（三本線）

デバイス

コントローラーのペアリング

- ③ 「他のタイプのコントローラーをペアリング」を選択する。



- ④ 「HTC Viveトラックナー」を選択する。

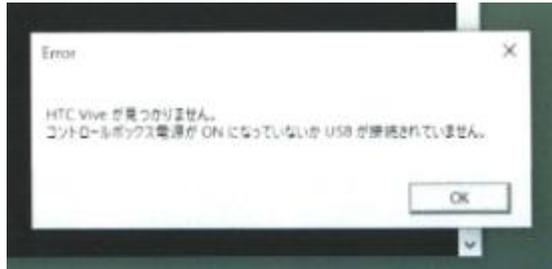


- ⑤ トラックナーのボタンをLEDが消灯するまで長押しし、一旦電源を切る。再度2秒以上長押ししてペアリングモードにすると、ペアリング完了となる。



## (2) PC起動時にシステムが立ち上がらない

PC起動時、電源ユニットが「ON」になっていない場合、エラーダイアログが表示され起動できない。「システムの起動」の手順から電源ユニットのLED点灯を確認し、消灯している場合は電源を「ON」にする。その後、「システムの終了」、「システムの起動」の手順でPCの再起動を行う。



(スクリーン画面)



## (3) 消火器（トラッカー）が動作しない

トラッカーのLEDで電源状態を確認する。PCとシステムが起動している場合、緑色灯が正常である。トラッカーのUSB-Cを抜き差ししても消灯している場合は充電切れとなっているため電源が入っていない。「システムの終了」の手順から消火器の充電を行うこと。システムはトラッカーの数が足りない場合でも動作する。



## (4) 消火器のターゲットが表示されない

トラッカーのペアリングが切れている。又はペアリング中の可能性がある。トラッカーの状態によって復旧方法が異なるので (A, Bパターン) 「トラッカーの点滅・点灯状態」によって復旧作業を試してみることに、

## 【Aパターン】 緑ランプ点灯

アプリケーションは起動させたままで、

- ① トラッカーボタンを長押しでランプを消灯させる。
- ② もう一度長押しで緑ランプが点灯する。

## 【Bパターン】 青ランプ点滅

前述の「トラッカーが青点滅している」を参照し、ペアリングを行う。

## (5) 消火器のレバーを握ってもスクリーンで噴射されない。

レバーを握った・放したという動作の判定は、マグネットセンサーで感知しています。また、マグネットセンサーからの信号をトラッカーからPCに送信しています。



表側・ビス頭



裏側・ビス先に磁石を接着

磁石  
マグネットセンサー

磁石とマグネットセンサーは、距離を調整していますが、レバーを握りこんでも反応がない場合、ビスが若干緩くなっている可能性があります。距離が離れているような場合、「ビスを差し込む」ように右回りに回転してください。

(6) 前述の対処をしても、復旧しない場合。

トラックのペアリングや電源ユニットの起動をしても、全体がうまく稼働しない場合、PCを再起動してください。

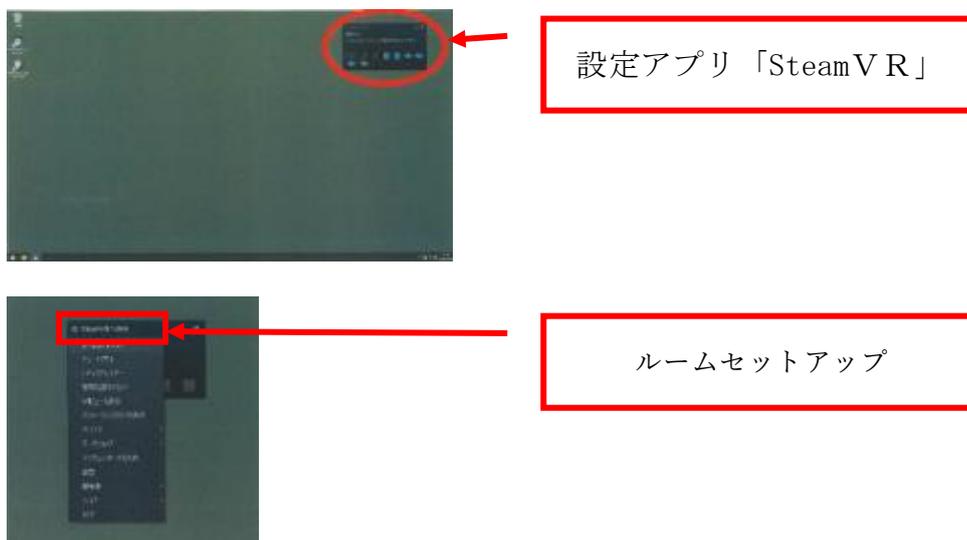
PCだけを再起動する場合は、UPSの電源は入れたままで構いません。

#### 4 その他

- (1) 未使用機材について（主に業者が点検・修理時で使用すること）  
消火器展示の棚の中には、白い箱に未使用機材が格納されている。消火体験システム内では利用することはない。キャリブレーション時などの必要時以外は触らないようにすること。



- (2) キャリブレーションについて（業者が対応すること）  
消火器に取り付けられているトラックは、スクリーン画面上の2台のベースステーション（赤外線投光器）と連動している。投光器側が固定されているため、トラックの位置ずれ等は基本的に発生することはないが、何らかの理由で位置ずれが発生した場合、キャリブレーション操作を行う必要がある。
- ① PC起動後、ESCキーでコンテンツアプリケーションを終了する。  
② デスクトップの設定アプリ（SteamVR）の左上メニュー（三本線）から「ルームセットアップ」を選択する。



設定アプリ「SteamVR」

ルームセットアップ

- ③ 「ルームスケール」を選択する。



ルームスケール

- ④ 「次へ」を選択する。



次へ

- ⑤ 未使用機材の白い箱からヘッドマウントコントローラー（1個）を取り出し、ベースステーションから見える位置に置く。



コントローラー

- ⑥ コントローラーの電源ボタンを「ピ」と音が鳴るまで長押し、電源を「ON」にする。(充電状態に注意すること)



- ⑦ ヘッドマウントとコントローラー(1個)が認識されたら「次へ」を選択する。



次へ

- ⑧ コントロールをスクリーンの方向に向けてトリガーボタンを押し続ける。



次へ



- ⑨ 「次へ」を選択する。

- ⑩ スクリーン左右中央、スクリーン面から約1.6mあたりにコントローラー1個を置き「床をキャリブレーション」を選択しする。
- ⑪ 「次へ」を選択する。



- ⑫ 「次へ」を選択する。



- ⑬ 「詳細モード」にチェックを入れます。コントローラーを手に持ち、時計回りで部屋の4隅でそれぞれコントローラーのトリガーボタンを押します。精密な位置は必要ありません。2m四方以上の広さを設定してください。設定エリアが狭い場合は、赤表示となりますので「戻る」で作業をやり直してください。





- ⑭ エリアが緑に表示されたら、矢印がスクリーン方向になるように「反転」ボタンやドラック操作で回転調整する。

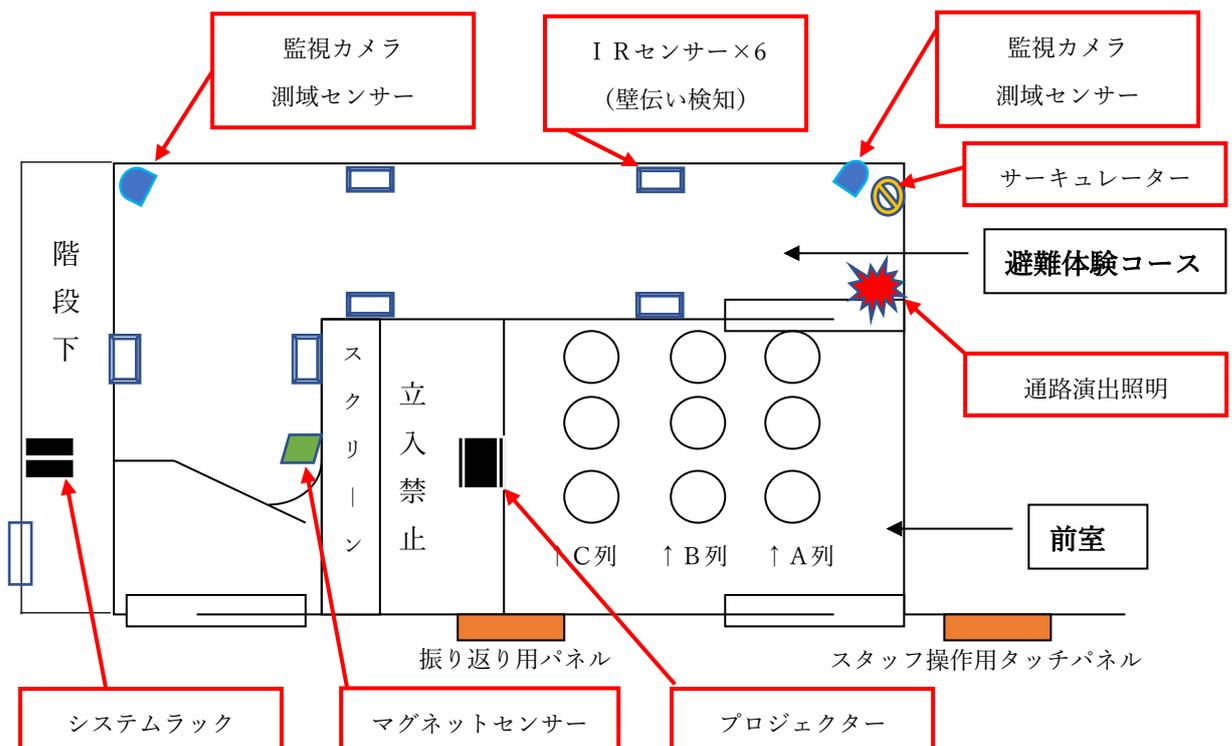


- ⑮ 「次へ」を選択し、キャリブレーションが完了する。



## ■ 煙避難体験コーナー

### 【機器配置図】



## 1 システム概要

### (1) 概要

火災時の避難方法、特に煙から身を守りながら避難する方法を映像で学び、また実際に避難の体験をするシステムです。体験者は最大3名ずつのチームに分かれ体験を行います。体験中は各センサーによって避難状況を採点し、体験後は体験振り返り画面で、チームごとの避難結果を確認します。

(2) 利用機器

① 階段下

システムラック



② 前室

プロジェクター



③ 避難路（避難体験コース）

A 測域センサー（姿勢検知用）

B 監視カメラ（映像用）



C I Rセンサー（壁伝い検知用）



D マグネットセンサー（ドア開閉検知用）



E 避難路（炎）演出用照明



F 避難路（煙）演出用サーキュレーター



⑤ フロア

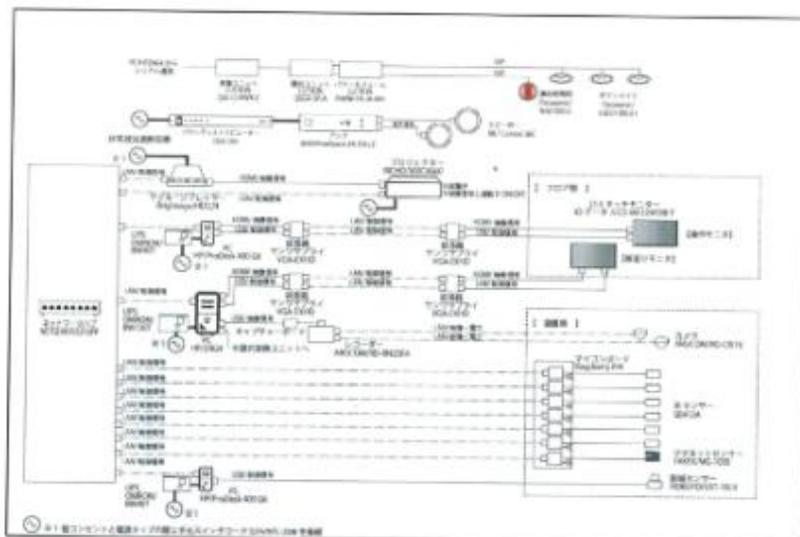
A スタッフ操作用タッチパネル



B 振り取り用パネル



C システム構成図

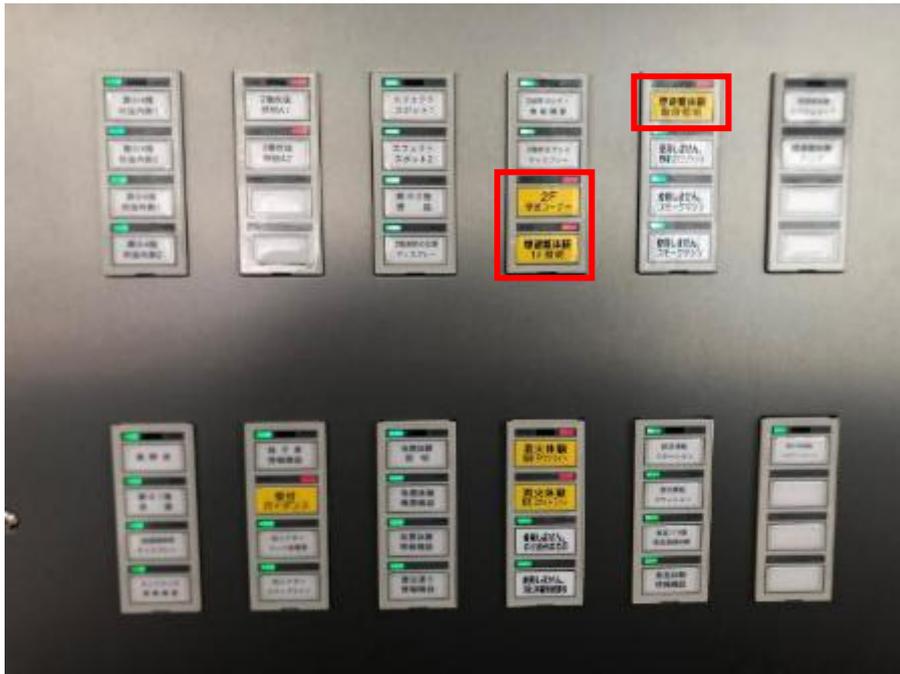


## 2 操作手順

### (1) 照明について

インフォメーションコーナーの後ろのスイッチで、煙避難体験コーナーの照明の入り切りを行う。

なお、システムの起動と室内の照明（ON/OFF）は連動していない。



「2階」学習コーナー  
の照明スイッチ  
常時「ON」

「1階」煙避難体験コーナー  
の照明スイッチ  
体験時は常時「OFF」

(2) システムの起動

システムの起動に必要な機器については、煙避難体験コーナーの左側、学習コーナーへの階段下のラック内に収容されている。

【ラック全体】



アンプ電源ボタン



- ① アンプの電源を「ON」にする。



- ② 手元スイッチを「ON」にする。  
UPSが「ピー」という起動音で「ON」になり、連動してPCとサイネージプレイヤーが起動する。



(緑側が「ON」)

- ③ 前室のスクリーン前に収納されているプロジェクターの電源を「ON」にする。



- ④ 避難路（炎）演出用照明を専用リモコンで「ON」にする。



ON

- ⑤ 避難路（煙）演出用サーキュレーターを専用リモコンで「ON」にする。



ON

## (3) 体験の流れ

## ① スタッフ操作用タッチパネル操作方法

## 【ロック画面】



タッチパネル操作が5分間無い場合、ロック画面になり、操作ができない状態になる。4桁の数字パスワードを入力してロックを解除し、操作画面にもどる。

【パスワード】 0119

## ② 前室待機からガイダンス映像の再生

体験者の入室を待ち、スタッフ操作用タッチパネルからガイダンス映像を「再生」開始する。(最大入室人数は原則9名まで)



## 【再生】ボタン

ガイダンス映像を再生する。再生後、「停止」を押すと再生の途中停止ができる。再生完了後はグレーアウトして押せない状態になる。

## ③ チーム避難開始

- A ガイダンス映像終了後、スタッフ操作用タッチパネルから避難開始の指示を行う。
- B 避難はチームごとに分かれて行うため、1チームずつそれぞれ「体験開始」ボタンで避難を開始する。(1チームは原則3名とする)
- C チーム避難体験中、他のチームは前室で待機する。



## 【体験開始】ボタン

1チームごとの避難を開始する。避難開始後、「体験終了」でチームごとの採点を行い、振り返りパネルに記録が追加される。チーム避難体験中は他のチームを避難開始させることはできない。

## ④ チーム避難終了 → 次チーム避難開始

避難が完了したチームの「体験終了」ボタンでチームの避難体験を終了させ、次のチームの避難を開始する。



## ⑤ 全員の避難終了

フロアの振り返り用パネルで避難体験の結果を振り返り学習する。  
体験結果は1日分を確認できるため、終了後はいつでも閲覧操作可能である。

## 【一覧画面】

チームごとの避難体験結果を表示、記録は1日分が表示される。  
未確認の記録には「赤丸」が表示される。

体験時刻 / Time	列 / Line	総合評価 / Total Rank
● 18:49	C 列	C
● 18:48	C 列	A
18:48	B 列	B
● 18:47	A 列	B
13:27	C 列	B

「確認 / Review」  
ボタン  
↓  
結果詳細画面に移行

## 【結果詳細画面】

各記録の結果を表示する。



「体験時映像」  
体験時の映像が  
自動ループで  
再生される。

**【避難体験結果 採点基準】****姿勢の採点 (A、B、C)**

チーム体験開始から体験終了までの間で、姿勢検知用センサー位置の高さで検出された時間を測定し採点します。

- A: 0秒～5秒
- B: 5秒～10秒
- C: 10秒～

**壁伝いの採点 (A、B、C)**

チーム体験開始から体験終了までの間で、壁センサーの反応したエリア数で採点します。通路左右の壁センサー2つを1組、1エリアとし、3エリアを判定します。

- A: エリア反応数3
- B: エリア反応数2
- C: エリア反応数1、0

**扉開閉の採点 (A、B)**

チーム体験終了時、通路出口の扉開閉状態を判定します。

- A: 閉じている
- B: 開いている

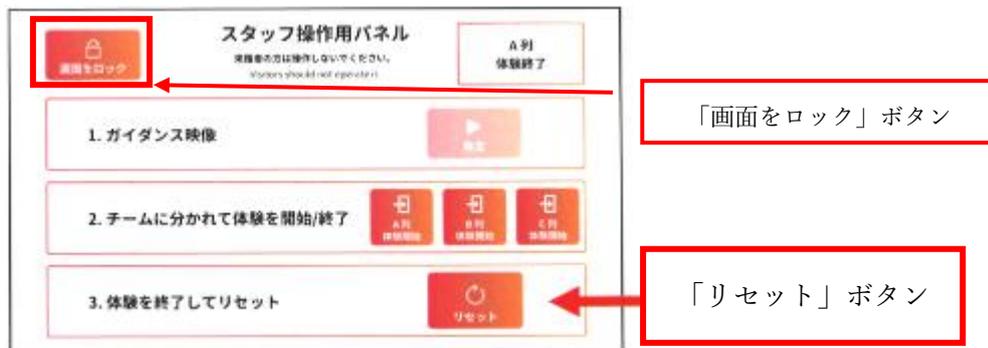
**総合評価の採点 (A、B、C)**

姿勢の採点、壁伝いの採点、扉開閉のそれぞれの採点を A:3点、B:2点、C:1点 として総合得点を計算します。

- A: 8点以上 (例 AAB、AAA)**
- B: 5点～7点 (例 ABB、BBB、BBC)**
- C: 4点以下 (例 BCC、CCC)**

## ⑥ 体験終了

振り返り終了後は、スタッフ操作タッチパネルから「リセット」ボタンでシステムをリセットし、初期状態に戻す。



## 【リセット】ボタン

全員の体験を完了後、システムをリセットさせ待機状態にする。

## 【画面をロック】ボタン

強制的にロック画面になる。

## (4) システム終了

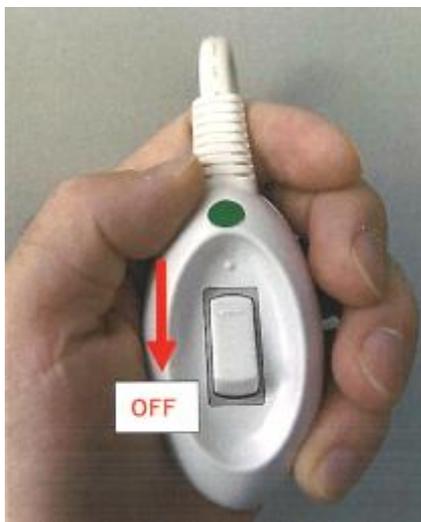
- ① 手元スイッチを「OFF」にする。

UPSが「ピーピーピー」と継続して3分ほど鳴り続ける。

この間にUPSに連動してPCがシャットダウンし、サインージプレイヤー及びプロジェクターが終了する。

※ 音が鳴っている間は、手元スイッチを「ON」にしないこと。

もしも、「ON」にした場合は、PCを手動で操作し電源ボタンから起動する。そこから、もう一度スイッチを「OFF」にする。



- ② アンプの電源を「OFF」にする。

UPSの音が鳴っていても、OFFにしてかまわない。



### 3 トラブルシューティング

- (1) IRセンサー（壁伝い検知）、マグネットセンサー（ドア開閉検知）が反応しない。

各センサーのボックスを覗いて、LED赤点灯で通電、LED白点灯でセンサー反応状況の確認ができます。LEDの点灯が確認できない場合は、センサーボックス電源を抜き差ししてマイコンボードを再起動してください。

- (2) 測域センサー（姿勢検知）の結果がおかしい。

検知エリア内の障害物が考えられます。ドレーブが下がりすぎていないか確認してください。

- (3) カメラ映像が表示されない。

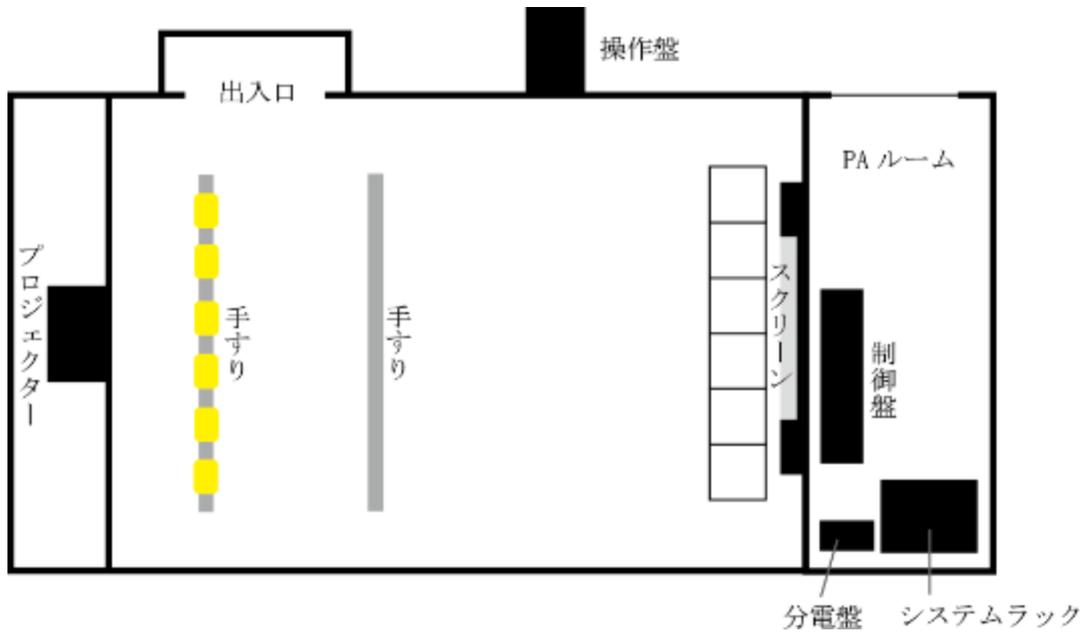
監視カメラが動いているか動作状況を確認してください。カメラ正常動作時、緑のLEDがレンズ奥に点滅しています。

点滅が確認できない場合、LED接続が切れているか、機器ラック内レコーダーの電源が入っていません。LAN接続を確認し、ラック内レコーダーの電源スイッチを確認してください。「システム終了」「システム起動」からシステムの再起動を行ってください。

- (4) スタッフ操作用タッチパネル、振り返り用パネルのタッチ操作が行えない。

タッチパネル側、PC側のUSB接続を確認してください。再接続後、PCを再起動させるため「システム終了」「システム起動」からシステムの再起動を行ってください。

## ■ 暴風体験コーナー



### 1 システム概要

#### (1) 操作盤



(2) 制御盤



(3) 分電盤



(4) システムラック



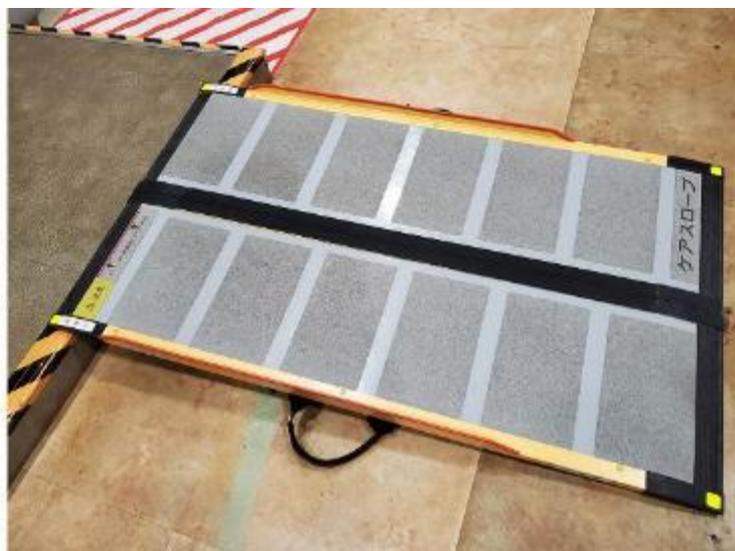
(5) プロジェクター





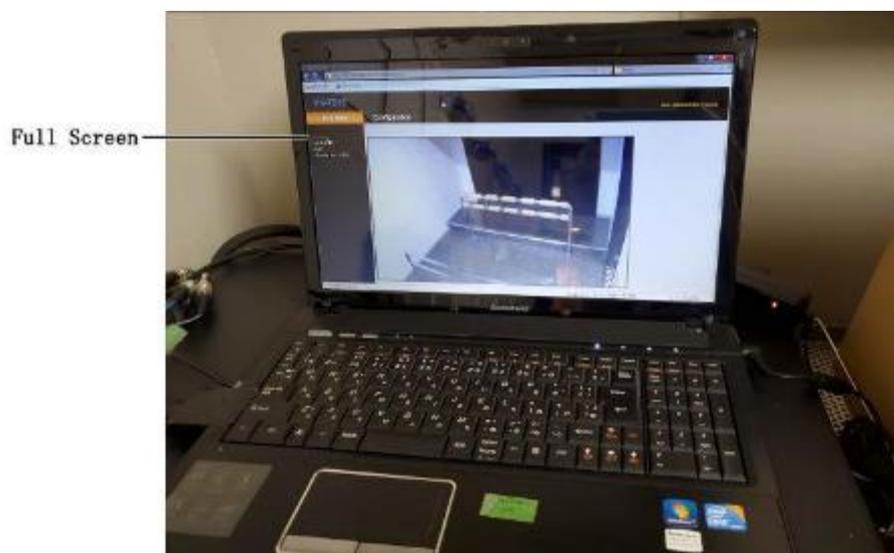
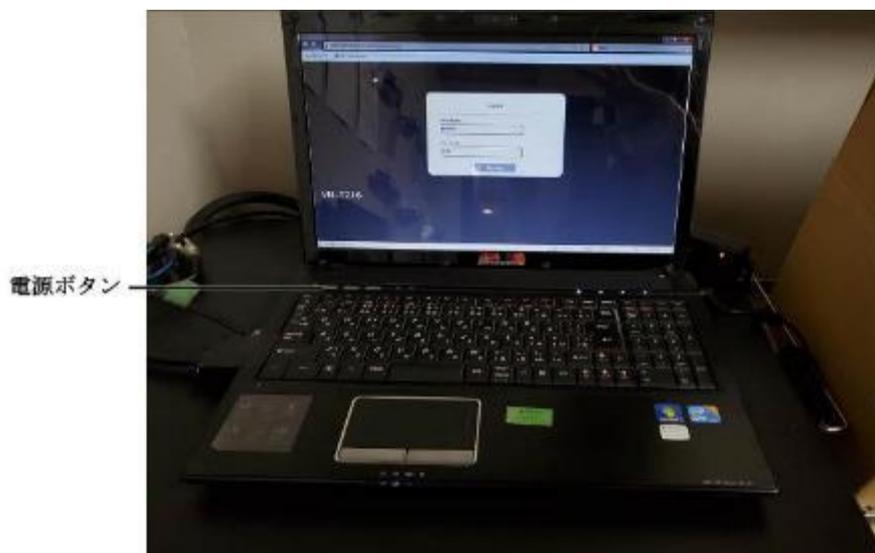
プロジェクター用  
リモコン

(6) スロープ





- ③ カメラ映像送出用 PC の電源スイッチを押す。表示される「Log On」入力画面で User Name 「ADMIN」、Password 「JVC」を入力し、「Sigh up」をクリックする。次の画面で「Full Screen」をクリックする。



- ④ 室内にごみや異常がないことを確認し、パターン3(0~30m/s)で試験運転を行う。  
※必ず無人の状態で行う。  
※すべての装置が問題なく動作することを確認する。異常がある場合は運用を中止する。

## (2) 演出同期

- ① 「演出パターン選択」より体験する風速を選択し、スイッチを押す。  
1：風速 0~10m/s  
2：風速 0~20m/s  
3：風速 0~30m/s  
4・5：予備
- ② 「スタート」スイッチを押す。
- ③ 動作中の演出を停止する場合は「ストップ」スイッチを押す。



(3) 手動

- ① 「暴風(風速)パターン選択」より選択し、スイッチを押す。  
OFF：暴風停止  
1：風速 0～10m/s  
2：風速 0～20m/s  
3：風速 0～30m/s  
4・5：予備
- ② 「演出部設定」よりストロボライトやカラーライトなどを手動で「ON/OFF」することが可能。

(4) システム終了

- ① 演出が終了(暴風停止)し、体験ルーム室内が無人であることを確認する。
- ② カメラ映像送出用 PC の電源ボタンを押し、シャットダウンする。
- ③ 分電盤のブレーカーをシステム起動時の逆の順に「OFF」にする。  
※「9 コンセント」と「12 非常灯」のスイッチは「ON」のままにする。

### 3 トラブルシューティング

#### (1) 警告ランプ

- ① 館内に非常・緊急放送が放送された時は、装置が自動的に停止し、「非常緊急放送」ランプが点灯する。  
緊急放送が終了すると、「リセット」ボタンが点滅する。「リセット」ボタンを押下すると再び通常の運転が可能になる。



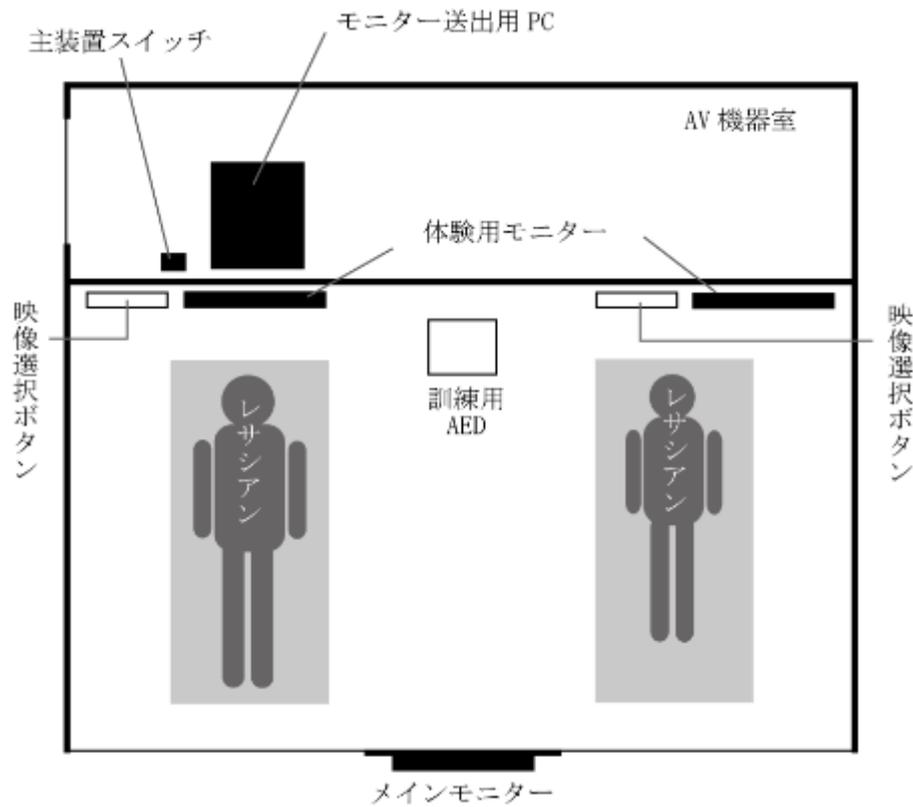
- ② 機器異常が発生した場合は「機器異常」ランプが点灯する。運転中に点灯した場合、強制的に装置は停止する。装置の点検を行う。

#### (2) 非常停止スイッチ

- ① 装置が操作不能になった場合(ストップボタンの故障)などに強く押す。  
※緊急時以外は使用しない。通常の停止は「ストップ」ボタンを押す。
- ② すべての電源を OFF にして装置に異常がないことを確認する。
- ③ ボタン部分を時計回りに回転させて解除し、電源を ON にする。

- (3) ランプチェックが終わらない、または始まらない
  - ① AC200V のブレーカーが ON になっているかを確認する。
  - ② 非常停止スイッチを押した場合は、解除し再起動を行う。
  - ③ 非常・緊急放送が流れた場合は、再起動を行う。
  
- (4) 初期化に機器異常ランプが点灯する
  - ① すべてのブレーカーが ON になっているかを確認する。
  - ② 初期化中に非常停止スイッチを押した場合は、解除し再起動を行う。
  - ③ 初期化中に非常・緊急放送が流れた場合は、再起動を行う。
  
- (5) 運転中に機器異常ランプが点灯する
  - ① 「リセット」ボタンを押して復旧するかを確認する。  
※「リセット」ボタンで復旧する場合は体験ルーム背面の吸気フィルターの目詰まりがないか、制御盤の吸排気口がふさがっていないかを確認する。
  - ② 「リセット」ボタンを押しても復旧しない場合や、同様の現象が頻発する場合は装置が故障している可能性があるため、消防局へ報告し、指示を仰ぐ。
  
- (6) 音声・映像が出ない
  - ① 分電盤「3 ラックコンセント」の再起動をする。
  - ② メディアプレーヤーの立ち上がり後、再度運転する。

## ■ 救急体験コーナー

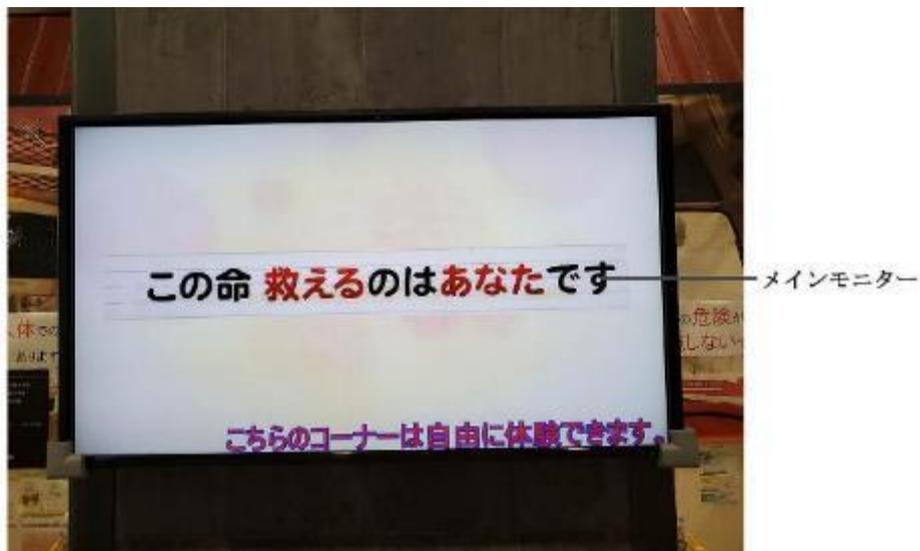


### 1 システム概要

#### (1) AV 機器室



(2) モニター



(3) 訓練用 AED



(4) レサシアン



## 2 操作手順

### (1) システム起動

- ① AV 機器室の主装置スイッチを「ON」にすると、メイン画面の電源が入り、映像が流れる。
- ② 体験用モニターの2か所はリモコンで操作し、電源を入れる。



### (2) 映像選択

- ① ボタンを押すと、映像が流れる。
- ② 「停止」ボタンを押すと、映像が停止する。



### (3) AED の設定

- ① 電極パッドが接続されていないことを確認し、バッテリーを取り外してから再度バッテリーを入れる。(または、2つの「オプション」ボタンを同時に押下した状態で、「電源」ボタンを押す)
- ② オペレータディスプレイにシナリオ番号が表示される。
- ③ シナリオ番号を選択し、「電源」ボタンを押す。

記号の意味

-  ショックが必要な調律がトレーナで検出される
-  ショック不要な調律がトレーナで検出される
-  心肺蘇生法を優先すべき「ショックが必要な調律」がトレーナで検出される  
トレーナは心肺蘇生法を推奨する
-  パッドのトラブルがトレーナで検出される
-  体動のトラブルがトレーナで検出される

シナリオ	シナリオの概要	詳細
1	 →  1回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・1回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
2	    →  4回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・4回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
3	 →  →  パッドにトラブルが発生後、 1回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッド接触不良、パッド確認の指示</li> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・1回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
4	 →  →  →  除細動後の再細動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・1回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・2回目のショックが必要</li> <li>・ショック不要</li> </ul>
5	 一貫してショック不要の調律	
6	  →  2回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・2回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
7	   →  最初にCPRを行い、1回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法を優先すべき「ショックが必要な調律」</li> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・1回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
8	 →   →  パッドのトラブル後、2回のショックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッド接触不良、パッド確認の指示</li> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・2回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> </ul>
9	 一貫してショックが必要な調律	
10	  →   体動検出後、ショックが必要、電池切れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体動を検出</li> <li>・ショックが必要な調律</li> <li>・1回のショックを実施</li> <li>・ショック不要な調律</li> <li>・電池切れ</li> </ul>

(引用元：訓練用 AED 「Laerdal AED Trainer 2」 取扱説明書 P6～7)

(4) システム終了

- ① メインモニター及び体験用モニターをリモコンで操作し、電源を切る。
- ② 完全に電源が落ちたことを確認し、AV 機器室のスイッチを「OFF」にする。  
※メインモニターの電源が落ちていない状態で AV 機器室のスイッチを「OFF」にすると、エラーが生じる場合がある。

## ■ はしご車に乗ってみよう

### 1 システム概要

#### (1) 運転席



#### (2) 操作席



(3) 制御装置



2 操作手順

(1) システム起動

- ① 受付後方の電源スイッチ「梯子車情報機器」を「ON」にする。
- ② システムが起動すると、無線機の交信音が鳴り始める。

(2) システム終了

- ① 受付後方の電源スイッチ「はしご車機器」を「OFF」にする。